

単元を貫く言語活動の充実に関する研究

～読書指導を取り入れた「読むこと」の授業づくりを通して～

M12EP013

横森 一哲

1. はじめに

昨年度の研究を通して、「単元を貫く言語活動」の充実には、「単元を貫く言語活動」を位置付けるだけでなく、「読む」行為をいかに改善させていくにかかっていることが分かってきた。そのための有効な方法としては、読書指導を授業に取り入れていくことが効果的ではないかと考え、今年度の研究を始めた。

〈単元を貫く言語活動について〉

国語科では、小学校学習指導要領解説国語編(以下解説書※)によれば、各領域の内容を指導事項に示し、言語活動例を内容に位置付けた。指導に当たって、指導事項を言語活動例を通して指導することを一層重視している。水戸部によれば、言語活動を単元のどこか一か所にしか位置付けず、前後では関連のない別の言語活動を行うのでは効果が上がらない。そこで、指導のねらいを確実に実現するために単元を貫いて言語活動を位置付ける必要があると述べている。(水戸部、2012)

〈読書指導について〉

「単元を貫く言語活動」を充実させるため、読書指導を授業に取り入れていく。本研究では、有元の考えである①～⑥の力を付ける指導を読書指導とする。

①文章を読んで正確に理解する力。

「読書指導①理解」

②書いてあることを基にして、その先にどんなことが書いてあるかを予測する力。

「読書指導②予測」

③書いてあることを手がかりに、なぜそういうことが起こったかを推測する力。

「読書指導③解釈」

④文章や人物の行動を評価・批判する力。

「読書指導④評価」

⑤文章に書いてあることを自分の問題として考える力。

「読書指導⑤個人」

⑥文章に書いてあることを基に、続き話を創作したり他の解決方法を創作したりする力。

「読書指導⑥創造」

これらの力を、今後、本報告書では上記のように「読書指導〇〇」と表すこととする。

〈C領域「読むこと」の指導事項「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」を中心にした研究であることについて〉

解説書※の総説にあるように、子どもたちが生きていく社会では、知識基盤社会化やグローバル化が進むため、自分の考えを伝え、相手の考えを理解しながら協力していく力が必要とされている。そこで、本研究では、それらの力を育むために、高学年の指導事項である「本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」が含まれる上記指導事項を研究の中心に位置付けることとした。

2. 先行研究

現在、単元を貫く言語活動を具体化した事例は国語に関する研究会、論文や雑誌への投稿などにおいて、実践され発表されている。しかし、単元を貫く言語活動を充実させるために「読む」行為に焦点を当てた実践的な研究はまだ十分とは言えない。

3. 研究の目的

(1)「単元を貫く言語活動」を充実させるための読書指導のあり方の一つを授業実践によって明らかにする。

(2)読書指導を「読むこと」の授業にどのように取り入れていけば、授業のねらいが達成でき「単元を貫く言語活動」が充実するかを授業実践によって検証する。

4. 研究内容と方法

○「単元を貫く言語活動」が充実するために考えた内容は次の4点である。

- 1 お話5（5つの項目であらすじを書く。）
- 2 キャラクターマップ（人物相関図）
- 3 根拠と理由で話し合う。
- 4 課題解決の問いについて話し合う。

○授業実践を行い、設定した「単元を貫く言語活動」が充実したかどうかは、次の4点で検証する。

- 学習感想を分析する。
- 成果物を分析する。
- 授業のビデオから授業中の子どもたちの様子を見取る。
- 今年度初めと研究授業の後で意識調査を行い参考にする。

5. 研究結果と考察

(1) 研究授業に至るまでの経緯

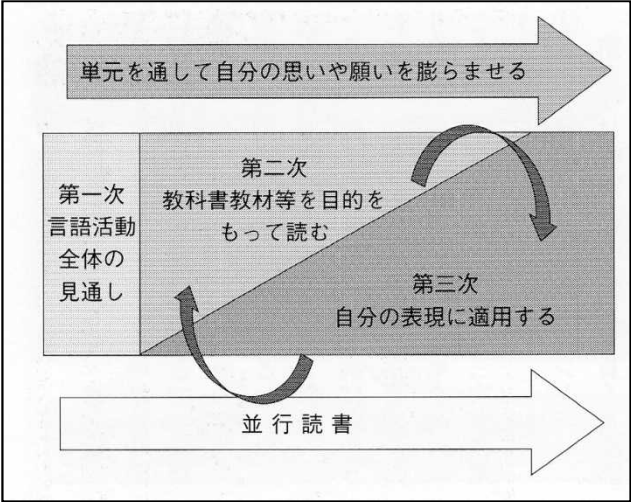
【表1 学習内容「私の生き方マップ」】

教材	時間	読書指導の内容	読書指導でつきたい力
百年後のふるさとを守る。	1	物語の背景（基礎知識や予備意識）	読書指導①理解～⑥全ての基となる
	2	問いから読み聞かせ	読書指導①理解中心、②～⑥は少しずつ
	3	5つの項目であらすじを書く	読書指導①理解
	4	キャラクターマップ（人物相関図）	読書指導①理解
	5	自分との共通点	読書指導③解釈、④評価
	6	自分との相違点	読書指導③解釈、④評価
	7	人生相談コーナー	読書指導④評価、⑤個人
	8	一文で、どんな生き方をしたのか、その人の、どんな生き方が気に入ったのかなど	読書指導④評価
	9	5つの項目であらすじを書く	読書指導①理解
	10	キャラクターマップ（人物相関図）	読書指導①理解
	11	自分との共通点	読書指導③解釈、④評価
	12	自分との相違点	読書指導③解釈、④評価
	13	人生相談コーナー	読書指導④評価、⑤個人

7月に、単元「偉人や友達との交流を通して『自分の生き方』について考えよう」を行った。教材は『百年後のふるさとを守る』（光村図書5年『銀河』）であり、並行読書として、その他伝記の本35冊を用意した。

〈見えてきた課題〉

指導事項「オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。」について課題がある。



【図1 単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想モデル(水戸部,2013)】

図1に示すように、第三次は「単元を貫く言語活動を、子ども自身が自力で遂行する」(水戸部,2013)こととなる。三次は、並行読書をしてきた伝記の中から各自が選んだ伝記について自力で「わたしの生き方マップ」を作っていくことである。できあがった「私の生き方マップ」で友達と交流したのだが、本単元のねらいである「自分の考えを広げたり深めたりする」ことが十分できなかった。成果物を使って最後に交流したため、交流が浅いものになってしまったことが考えられる。

そこで、次の単元では、並行読書から自分で選んだ作品について読み進める時も、お互いの考えを交流する機会をたくさんとって（読書会）読み進めるように改善した。

〈課題から研究授業（11月）へ〉

11月に、単元「読書会をして『作者が伝えたいこと』を読み取ろう」を行った。

単元を貫く言語活動を充実させるために、本を読んでお互いに考えたことを交流する意味で「読書会」を意識した授業を行った。単元を貫く言語活動は、言語活動例「エ 本を

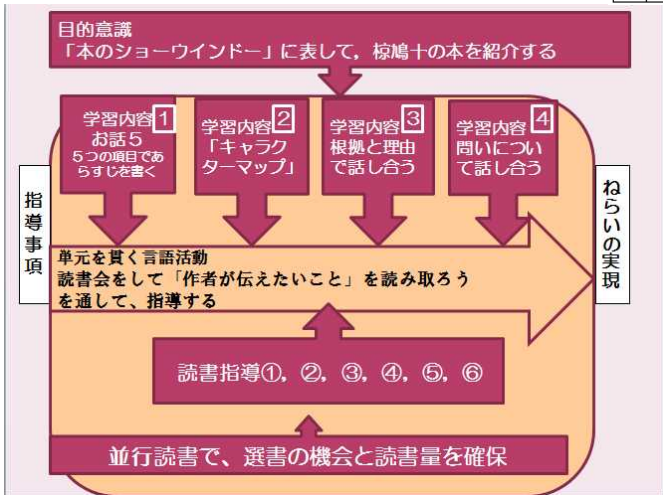
読んで推薦の文章を書くこと。」である。推薦の文章は、「本のショーウインドー」として具体化する。子どもたちはよい「本のショーウインドー」を作ることを目的にする。作った「本のショーウインドー」は、椋鳩十のコーナーで本を紹介する役目をする。全校の目に触れることを意識しながら作成をしていく。子どもたちは、5年生としてよく書けていると思ってもらえるような「本のショーウインドー」を作ろうとする。そこで、独りの考えではなく、友達と話し合って自分の考えを広げたり深めたりしたものを作りたいと考えるだろう。よりよいものを作るために、友達と「読書会」をする必要がある。さらに、本の主題に迫る問いについて友達と議論するような活動も授業改善の一つとして設定した。

【表 2 授業実践で取り組んだ研究内容】

7月の授業実践	研究内容	1	2	3	
11月の授業実践	研究内容	1	2	3	4

(2)研究授業の結果と考察

以上のことをふまえて、次に示すような授業構想で授業を行った。



【図 2 研究授業の構想モデル】

【表 3 指導事項 言語活動例 単元を貫く言語活動】

指導事項	指導事項のねらいを達成させるためにびったりとして選んだ言語活動	この言語活動を具体化させるための「単元を貫く言語活動」
○本を読んで感じたことや考えたことの共通点や相違点をふまえて、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(C読むことーオ)	エ 本を読んで推薦の文章を書くこと	「本のショーウインドー」をつくるために読書会をする
○読書会をするために、登場人物の相互関係をとらえ、優れた叙述に着目して、内面に描かれた心情を想像して読むことができる。(C読むことーエ)		

○教材

『大造じいさんとガン』(光村図書5年 『銀河』) 並行読書として、椋鳩十の作品『片耳の大シカ』 『父とシジュウカラ』 『よわい犬』 『屋根うらのネコ』『金色の足あと』『月の輪グマ』

【表 4 学習内容「本のショーウインドー」】

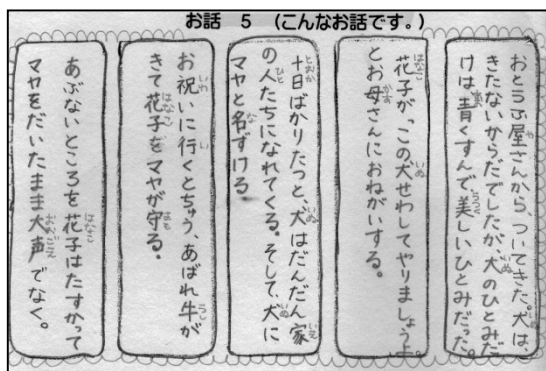
教材	時間	読書指導の内容	読書指導でつけたい力
大造じいさんとガン	1	物語の背景(基礎知識や予備意識)	読書指導①理解～⑥全ての基となる
	2	問いから読み聞かせ	読書指導①理解中心、②～⑥は少しずつ
	3	5つの項目であらすじを書く	読書指導①理解
	4	キャラクターマップ(人物相関図)	読書指導①理解
	5	お気に入りの場面	読書指導④評価
	6	問いに答えながら、「作者が伝えたいこと」を読み取る。	読書指導④評価
	7		
並行読書	8	5つの項目であらすじを書く	読書指導①理解
	9	キャラクターマップ(人物相関図)	読書指導①理解
	10	お気に入りの場面	読書指導④評価
	11	問いに答えながら、「作者が伝えたいこと」を読み取る。	読書指導④解釈、④評価、⑤個人、⑥創造
	12		
	13		

1)研究内容1「5つの項目であらすじを書く」

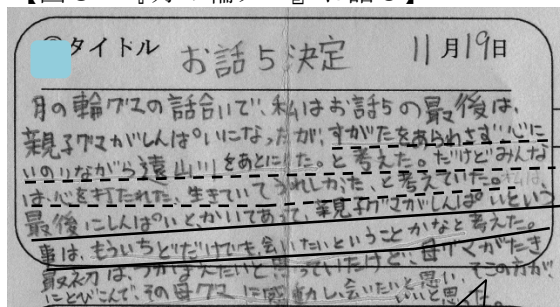
読書指導①理解の力をつけるために行う。

一人一人がどうしてもその 5 つにしたのか、理由や違いについて話し合うことで、より物語の内容の理解が深まる。

教科書教材では、リーディングパートナーとして意図的な2人組で読みながら書いていった。その後、クラス全体で話し合っ、どの項目がなぜ大切なのかについて話し合った。このことが、教材の内容を理解することになる。その力を使って、自分がえらんだ作品については独りで書き、書いた物を基に同じ作品について学習している友達と話し合った。



【図3 『月の輪グマ』お話5】



【図4 「お話5」決定の学習感想】

考察

あらすじを5つで表すこととしたために、自分の考えと友達のとに相違点が生まれ、そのことに気付くことができています。さらに、自分の考えの正しさの根拠を見つけ理由を書いている。そのことによって、作品への理解を深めている。

2) 研究内容②「キャラクターマップ (人物相関図)」

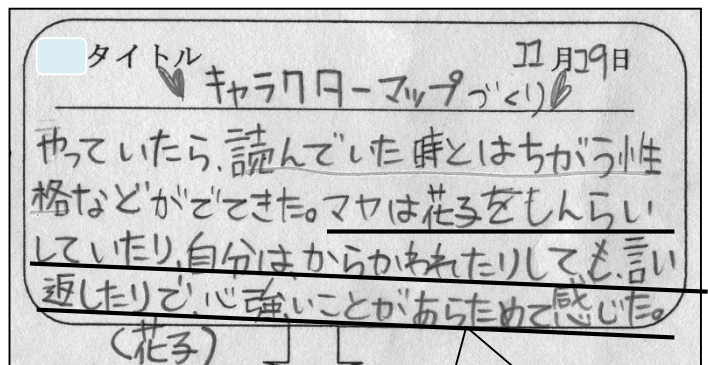
読書指導①理解の力をつけるために行う。

教科書教材では同じ文章を読んでいるので、リーディングパートナーと読みながら捉えた登場人物の性格や関係をふせんに書いて、それが分かる部分に貼っていった。それを基に作った「キャラクターマップ」をグループ(リーディングパートナーを2つ合わせた4人グループ)で話し合った。どんな性格か、それはどこからそういえるのかなどを話し合い、必要に応じて本文へ戻って確認していく。このようにして、教材の内容理解を深めようとした。一方、自分の選んだ作品については、

まず、自分でキャラクターマップを作り、それを基に同じ本を選んだ人と話し合い、交流を深める時間を設定した。



【図5 『よい犬』キャラクターマップ】



【図6 キャラクターマップ作りでの学習感想】

考察

キャラクターマップを作る過程で、作品をさらに読み、登場人物の相互関係を捉えることで、作品の理解を深めている。

上記のように、「5つの項目であらすじを書く」言語活動と「キャラクターマップ (人物相関図)」をつくる言語活動を行った。作ったものを基に話し合い、他との違いから自分のものを見直すことを通して、あらすじや人物の関係を多面的に捉えることで作品の理解が

深まったと言えるだろう。その上で次の学習は、問いについて話し合い、自分の考えを広げたり深めたりしようとした。

3)研究内容③ 根拠と理由で話し合う。

読書指導③、④、⑤、⑥の力をつけるために行う

解説書※の「オ 自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」では、「それぞれ考えたことが、どのように共通していたり相違したりしているのかなどを明らかにしながら『自分の考えを広げたり深めたりすること』につなぐことが重要である。」としている。どのように共通していたり相違しているかは、A という考えであるかBという考えであるかだけでなく、どこからそう考えたのか(根拠)と、その根拠からどう解釈(理由)したのかについて明らかにすることが、「自分の考えを広げたり深めたりすること」につながるのだと筆者は考える。また、そのことが異なる考えをもった人と理解し合うこと、協力し合うことにもつながるのではないだろうか。

(事例と考察は紙面の都合で後述する。)

4) 研究内容④ 問いについて話し合う

読書指導③、④、⑤、⑥の力をつけるために行う

7月の実践から、自分の考えを深めたり広げたりするためには、教科書教材を学習する段階から、課題解決の問いを立ててお互いの考えを交流することが大切だと考えた。これは、「ブッククラブで用いられる問い(読書指導①～⑥の力をつけるための問い)に答えることが、これからの子どもたちに必要な国際的な読解力と表現力を育てるのに有効だからです。」(有元, 2011)という考えを基にしている。問いの一つの例として一般的によく用いられる「作者が伝えたいことは何か。」という大きな問いも考えられるが、筆者の経験では、友達の考えはよいものばかりに思え、質問しようにもなかなか質問できないことがよく見られる。課題解決の話し合いではなく、感想交流になってしまうのだ。なかなか考えの交流に深まっていかない場合が多い。それ

に対して、課題解決の問いを立てると、話し合う場に出てくる考えは検討しやすく、話し合いの内容が深まる。検討する内容が、意見自体だけでなく、その意見の根拠と理由について話し合いができるからだ。そうなった時に、子どもたちは、自分の考えを深めたり広げたりする交流がしやすくなるのだと考える。

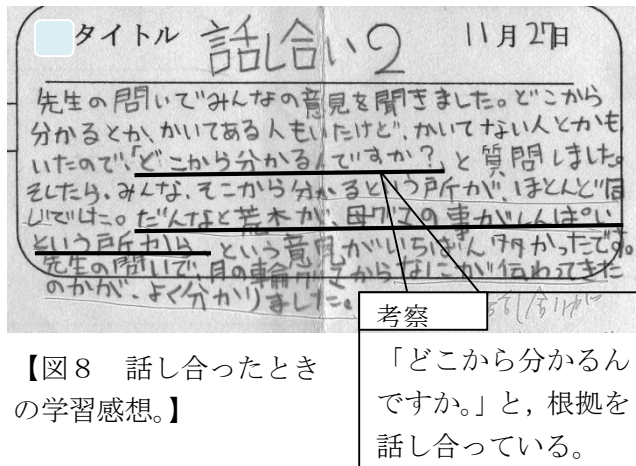
そこで、よい問いを考える必要がある。本研究では、よい問いは、多様な考えが出され、問いについて話し合っているうちに、本来解決したい大きな課題について考え、その答えを子ども一人一人がもてる問いだと考える。多様性があるからこそ、交流し深める必要がある。また、友達の考えと自分の考えを比べながら、自分の考えを深めたり広げたりすることができる問いもよい問いである。

研究内容③と④に関わって「問いについて、根拠と理由で話し合うことによって、自分の考えが深まった例」として2人の児童の記述を以下に紹介する。 児童 A

問い	「いっまでも見まもっていないで、あなたなら子ワニをつかまえるか、つかまえないか。」
答え	つかまえない
根拠と理由	指導計画 1 1 時間目に、児童が取り組んだ問い 母ワニの子ワニへの愛とか、大切さが、伝わってきたから、つかまえないで、いっまでもいっまでも見まもっていた人だと思う。その時、荒木は、「めったにやめ、まだ生きています。」と、おまんとくに「うれしそうにいったし、わたしは、ものをいえず、おまみだかいほろほろこぼれそう。そして、あの母ワニのことが、うれしすぎる」という事は、母ワニの子ワニへの思いが伝わったから、だ」と思う。

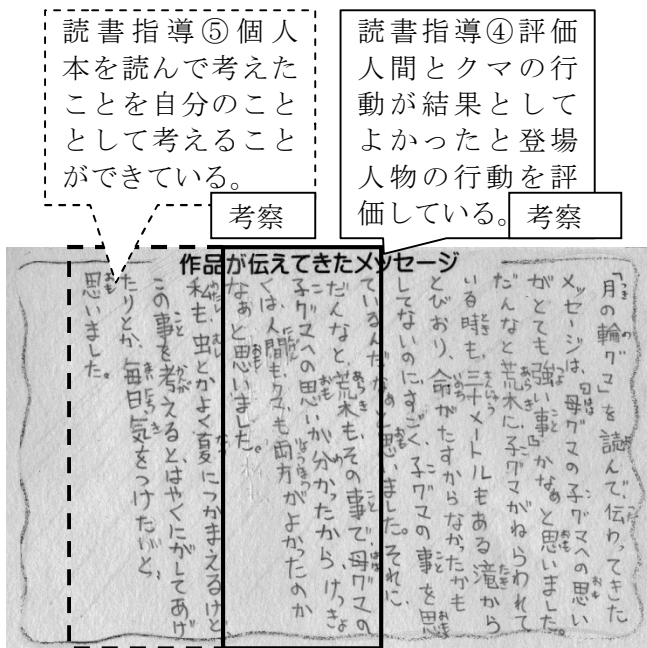
【図7 『月の輪グマ』の話し合う前の自分の考え】

○『月の輪グマ』を読んだ友達と問いについての話し合いを行った。



【図8 話し合ったときの学習感想】

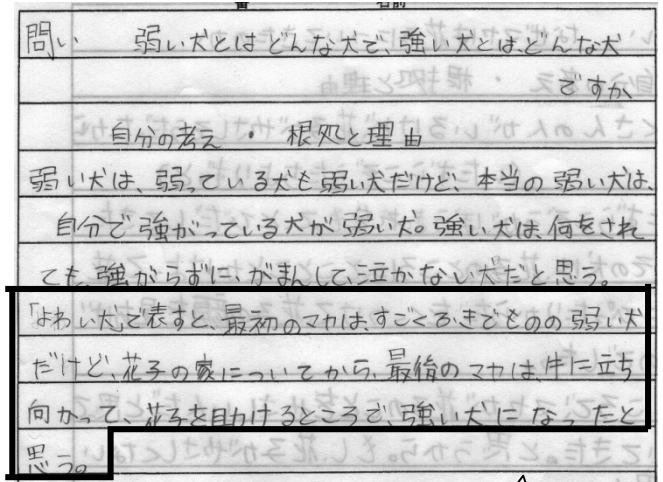
○問いについて話し合った後に、「作品が伝えてきたメッセージ」は何だったか次のように書いた。



【図9「本のショーウィンドー」の中の「作品が伝えたいこと」に最終的に書いた内容】

図8，図9の児童の記述及び筆者の考察より，読書指導③，④，⑤に関連した読みの深まりが見られる。問いがあるからこそ，自分の考えをもち，友達と根拠や理由について話し合うことができる。

次に，児童Bの記述を以下に紹介する。

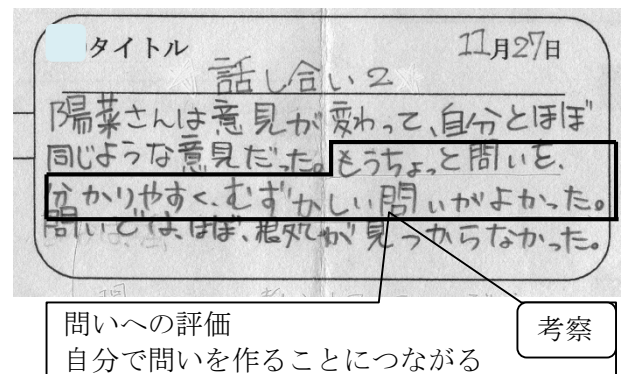


【図10 『よわい犬』の話し合う前の自分の考え】

考察

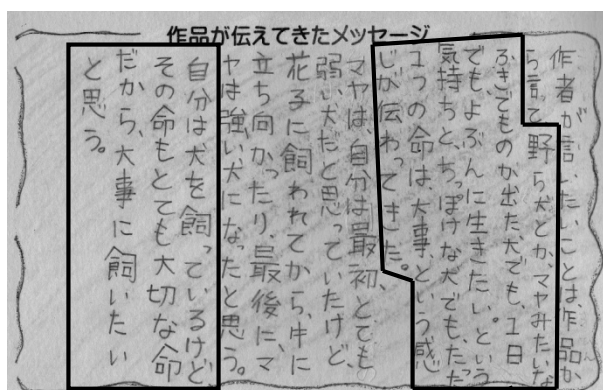
読書指導③解釈 問いによって、『よわい犬』のマヤの中に弱い犬と強い犬があり，最初は弱い犬だったマヤが花子の家に飼われ花子を助けることで強い犬になったと解釈している。

○『よわい犬』を読んだ友達と問いについての話し合いを行い，次の学習感想を書いた。



【図11 問いについて友達と話し合ったときの学習感想】

○次に，問いについて話し合った後に，「作品が伝えてきたメッセージ」は何だったかを次のように書いた。



読書指導⑤個人

本を読んで考えたことを自分の生活に生かそうと自分の問題として考えている。

考察

読書指導③解釈話し合いの前にはなかった考え

【図12 「本のショーウインドー」の中の「作品が伝えてきたメッセージ」に最終的に書いた内容】

図10, 図12の児童の記述及び筆者の考察より, 読書指導③, ⑤に関連した読みの深まりが見られる。問いによって, 「強い」「弱い」について自分の考えをもち, 飼い主と犬の関係について考えることから自分自身と飼い犬のことについての考えももつようになった。さらに, 「命の大切さ」という新たな着眼点ももつようになった。

以上の二つの事例から, 単元の最後にお互いの考えを交流するよりも, 子ども自身が自力で遂行する場合において交流することの方が, 新たな視点をもてるようになっていく。本研究で示した子どもたちにつけたい力①～⑥を明確にした読書指導は, 「単元を貫く言語活動」を充実させる読書指導のあり方の一つとして有効ではないかと考える。また, 「読むこと」の授業に, 「お話5」と「キャラクターマップ作り」によって作品を正しく理解した上で, 課題解決の問いについて根拠と理由で話し合うという読書指導を取り入れていくことは, 授業のねらい達成とともに, 「単元を貫く言語活動」を充実していく一つの方法になるのではないかと考える。

5)学習感想から見えた学びの向上

今年度初めの意識調査と研究授業の後で子どもたちの意識調査を比べると, 最も伸びて欲しい「読んで思ったことや考えたことを, 友達と話すのは好きですか」について, 明らかな意識の向上は見られなかった。事例の児童Bは, 意識の向上が見られなかった児童の一人である。しかし, 児童Bの学習感想や成果物の記述を見てみると違った結果が見えてくる。7月の授業実践と11月の研究授業におけるこの児童の記述を比較してみる。

【7月の授業実践】

○教科書教材の作品の「キャラクターマップ」を作る話し合いの学習感想

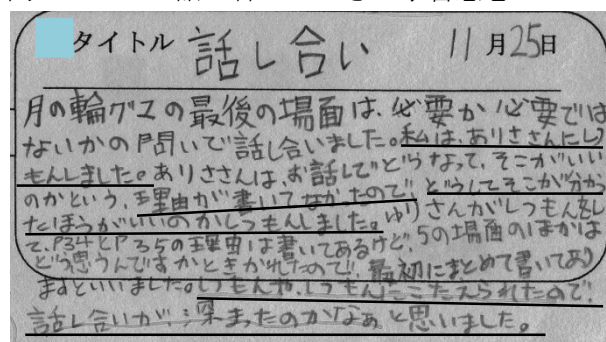
話し合いで, 「やさしい」と「みんな思い」が出て, 意味が同じだったからつなげて, 「やさしい&みんな思い」にして, みんなも賛成してくれたから, これとこれは同じにしようとか, これはつなげた方がいんじゃないかとか, みんなたくさん意見を言ってくれたから, うまくまとめることができた。

○自分がえらんだ作品の「お話5」について友達と話し合った学習感想

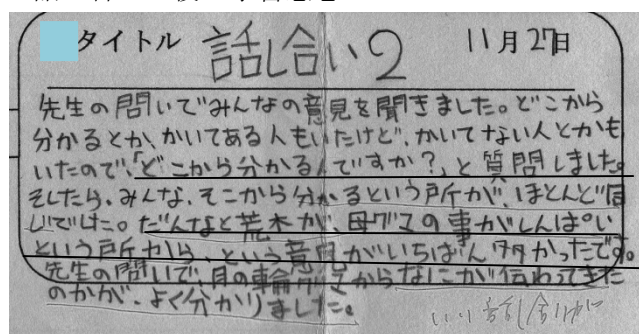
○○さんは, パスツールの人生を書いていた。○○さんの発表を聞いて, パスツールがどういう人なのかすごく分かった。発表を聞く前はパスツールとはどんなことをしたのか全然分からなかったけど, ○○さんがまとめたパスツールの人生を聞いたら, すごく分かりやすかった。わたしは, アンネフランクの人生を書くことにした。したことが多くて, まとめるのがとても大変だった。でも, アンネ・フランクにとっては, このことは人生には関係ないことと関係あることに分けていく。5つにまとめることができた。人生をまとめるのは大変だということが分かった。

【11月の研究授業】

○『月の輪グマ』を読んで自分たちで作った問いについて話し合ったときの学習感想



○『月の輪グマ』を読んだ友達と問いについて話し合った後の学習感想



7月の授業実践では、自分の考えと友達の考えの同じところに気付きまとめることができたり友達の考えの良さに気付いたりすることができていた(点線部分)。それに加えて、11月の研究授業では、さらに、自分から質問したり、質問に答えたりして話し合いに対して積極的になり、話し合いの良さについても気付き(実線部分)、学びの向上が伺える。

今後も、子ども一人一人の学習感想や成果物などを、丁寧に見ていくことを大切にしていきたい。

⑥読書指導①～⑥以外に子どもたちに付いた力 「比較・検討」

読書指導として意識していなかったが、子どもたちの学習感想や成果物の記述から「比較・検討」の力も付きつつあると考えられる。この力は、根拠と理由で話し合い、問いについて話し合うことを通して、他者の読みを解釈したり、自分の読みと比較したりすることで、自分の読みを見直したり自分の読みを進化させたりする力である。自分の考えを広げたり深めたりするためにも、この「比較・検討」の力も育てていきたい。

6. 今後の課題

本研究を通して、読書指導を通して話し合うためには、何となくそう思うのではなく、根拠と理由について話し合う事が大切であると示してきた。根拠と理由について話し合うことが、自分の考えを広げたり深めたりすることにつながっていった。さらに、異なった

考えの人とも理解し合うことができ、協力し合うことにつながっていくと考えている。国語科で付けた力として定着させ、他の学習でも常に子どもたちの普段の力とし使えるようにすることが必要である。

「単元を貫く言語活動」を充実させるための話し合いでは、いかに問いが大切か本研究でも明らかとなっている。ねらいを達成させるための適切な問いである必要がある。まず、教師が適切な問いを子どもたちと一緒にやってつくれる力を付けることを目指したい。さらに、子どもたちが自分で問いをつくり友達と話し合えたら、「単元を貫く言語活動」が充実するばかりでなく、話し合うことの楽しさを感じることができるだろう。そのことは、友達同士を理解し合うことにもつながるのである。本研究で、子どもたちは、作者が伝えたいこと・大切なことは何かを考えながら問いを作っていた。このような学習を積み重ねていくことで、自分で問いをつくり、友達と話し合う楽しさを感じさせたい。

7. 引用・参考文献

- ・有元秀文 2010年「読解力が飛躍的に向上するブッククラブの実践入門—だれでも明日からできる七つのストラテジー」明治図書
- ・有元秀文 2009年『PISA型読解力』の弱点を克服する『ブッククラブ』入門 明治図書
- ・有元秀文 2010年「ブッククラブ・メソッドで国語力が驚くほど伸びる」合同出版
- ・文部科学省 2012年「初等教育資料 平成24年4月号」76 東洋館出版
- ・文部科学省 2013年「初等教育資料 平成25年5月号」53 東洋館出版
- ・文部科学省(平成23年5版)「小学校学習指導要領解説 国語編」東洋館出版社